

From the Pulpit of the Japanese Baptist Church of North Texas
December 15, 2013

喜びの歌

ルカ 1:39-56

- 1:39 そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、
1:40 ザカリヤの家には行ってエリサベツにあいさつした。
1:41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリサベツは聖霊に満たされ、
1:42 声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。
1:43 主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんとという光栄でしょう。
1:44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。
1:45 主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。
1:46 するとマリヤは言った、「わたしの魂は主をあがめ、
1:47 わたしの霊は救主なる神をたたえます。
1:48 この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、
1:49 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、
1:50 そのあわれみは、代々限りなく／主をかしこみ恐れる者に及びます。
1:51 主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、
1:52 権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、
1:53 飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。
1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、
1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを／とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。
1:56 マリヤは、エリサベツのところに三か月ほど滞在してから、家に帰った。

クリスマスの歌には "Joy to the World" (もろびとこぞりて) のように "joy" (喜び) という言葉が入っているものがたくさんあります。"O come, O come, Emmanuel" (ひさしく待ちにし) という賛美では、折り返しで "Rejoice, rejoice!" (喜べ、喜べ) と歌います。クリスマス・カードや飾りにも "JOY" という言葉が使われます。「喜び」はクリスマスの大切なテーマです。アドベントの三本目のキャンドルは「羊飼いのキャンドル」と呼ばれ、それは「喜び」を表わします。イエスがお生まれになった夜、天使が羊飼いたちに「喜び」を告げ知らせたからです。天使は、羊飼いたちに、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである」(ルカ 2:10) と告げ知らせました。羊飼いたちはその言葉に従って、町に入り、飼葉おけに寝かされた赤ちゃんのイエスを見つけました。羊飼いたちは「見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら」(ルカ 2:20) 野原に帰っていきました。喜びの知らせを聞いた羊飼いたちが救い主を見つけて喜んだことが、聖書に記されています。

一、喜びの知らせ

しかし、救い主お生まれの喜びを聞いたのは、羊飼いたちが最初ではありませんでした。この喜びの知らせは、その九ヶ月前に、マリヤに届けられていました。神は、ナザレの村にいたひとりのまだ若い女性、マリヤのもとに天使ガブリエルを遣わし、天使はマリヤに「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」(ルカ 1:28) と告げました。この天使の言葉を直訳すると、"Rejoice, favored one, the Lord (is) with you." (喜べ、好意を受けた者、主はあなたと共に) となります。

天使の言葉は「喜べ」で始まっているのです。

「好意を受けた者」というのは、マリヤが救い主の母となるように神から選ばれたことを意味しています。「主はあなたと共に」というのは、主なる神が霊的に共にいてくださるというだけでなく、この場合は、主なる神がマリヤの胎内に宿るということの意味しています。マリヤは、他の誰もが体験することのない方法で、救い主を見る喜びを体験するというのです。羊飼いたちは飼葉おけの中に救い主を見、シメオンは自分の腕に救い主を抱きましたが、マリヤは、自分自身の中に救い主を持ったのです。

あらゆるものを超えて偉大な神が、人間となって女性の胎内に宿る。これは、とてつもない大きな奇跡です。イエスは神でありながら人であり、人でありながら神である。これは、人間の論理を超えた霊的な真理、救いの神秘です。431年のエペソ教会会議は、このことを言い表わすためにマリヤを「セオトコス」（Θεοτόκος）という称号を与えました。文字通りには「神を持ち運ぶ者」という意味です。マリヤの胎内に宿ったお方はまぎれもなく神であるキリストであり、マリヤは、文字通り神であるキリストを、天から地へと持ち運び、また、ナザレからベツレヘムまで持ち運んだのです。マリヤは神の御子を宿すことによって、「神われらと共にいます」という約束を世に示す者となりました。

二、信仰による喜び

マリヤには、神の子を宿し、産み、育てるという、今まで誰にも与えられたことがなく、これからも与えられることがない、大きな役割を与えられるのですから、それを告げる天使が「喜べ」、「おめでとう」と言ったのは当然のことです。しかし、マリヤはまだ未婚。未婚の女性が妊娠することは、当時はス

キャンダルだけでは済まされないことで、石打刑になるかもしれないのです。いいなずけのヨセフとの結婚もご破算になることは目に見えています。このことは、神への信仰がなければ、「喜べ」と言われて喜べるようなことではありません。しかし、マリヤは神の言葉を受け入れて言いました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。」

(ルカ 1:38) 神への信仰と、その言葉への従順を表わす言葉です。

マリヤの素晴らしさは、神の御子を宿したからだけではなく、神の御子を宿す前に、神の言葉をその心に宿したことにあります。イエスが宣教をはじめ、その知恵と力を表わされたときのことです。群衆の中からひとりの女が声を張りあげ、「あなたを宿した胎、あなたが吸われた乳房は、なんとめぐまれていることでしょう」と、イエスの母を称賛しました。多くの場合、その人が誉められ、敬われるとき、その母も誉められ、敬われるものです。それは、イエスにとってもうれしい言葉だったはずですが、イエスはそれに答えて言われました。「いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである。」(ルカ 11:27-28) イエスがそう言われたのは、神の言葉を信じる信仰者のつながりが、地上の肉親のつながりにまさって大切であることを教えようとされたのです。では、イエスはご自分の母を除外されたのでしょうか。いいえ、マリヤこそ、神の言葉を聞いてそれを守った恵まれた人でした。母マリヤほど素直に神の言葉に従った人はありません。それは、神の子を宿した時だけでなく、その後もそうでした。マリヤは、誰よりも先にイエスを信じました。マリヤはイエスの母でしたが、同時に、イエスの弟子でした。マリヤはイエスの宣教を支え、イエスの十字架のもとにまで従いました。それは、わが子を思う愛からだけでなく、神の言葉に従う信仰から出たものでした。マリヤはペンテコステの日に弟子たちと共にいて、教会

の誕生に関わり、教会の一員として教会に仕えたことが聖書に記されています。

マリヤにそのような信仰がなければ、マリヤは神の子を産み落とせば、後は用なしの単なる「代理母」で終わっていたでしょう。しかし、そうではありませんでした。マリヤは自分に告げられた神の言葉を信じ、信じたとおりに従いました。そのとき、すべての状況が変わりました。マリヤは石打に遭うことも、ヨセフと別れることもなく、神の御子を産み、育てるという、特別な恵みに与る喜びを味わったのです。マリヤの味わった喜びは、決して浮ついた楽しみや一時的な幸運といったものではありません。それは天から、神の恵みによって与えられ、信仰によって受け取る喜びでした。このクリスマス、私たちも同じようにして確かな喜びを受け取りたいと思います。

三、喜びの証

通常では信じられないような天使のお告げを聞いたマリヤは、その後、どうしたのでしょうか。ヨセフに相談に行ったのでしょうか。あるいはひきこもって「どうしようか、どうしようか」と思い悩んだのでしょうか。そうしたとしても当然だったかもしれませんが、マリヤはすぐにザカリヤの家に向いました。ザカリヤの家があった町の名前は知られていません。聖書には「ユダの山里」とだけ書かれています。マリヤがいたナザレからいちばん近いユダの町まで、途中のサマリヤを横切って、最短距離で行っても、60 マイルから 80 マイルはあります。若い女性が旅行するには、大変な距離です。なのに、なぜマリヤはザカリヤの家に行ったのでしょうか。それは、天使の言葉に関係があります。天使はマリヤに、神には不可能なことがないことを示すため、「あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっていま

す」と告げました。エリサベツは妊娠して五ヶ月の間は家に引きこもり、そのことを誰にも知らせていません。六ヶ月目になってやっと、公けにしました。ですから、ずっと子供が生まれず、もう高齢になっていたエリサベツが妊娠しているという噂は、まだナザレまでは伝わっていませんでした。マリヤはそのことを天使から聞いてはじめて知ったのです。不妊のエリサベツに子どもを与えた神が、未婚のマリヤに神の子を宿らせるのですから、マリヤは神がエリサベツになさったことを見たいと思ったのでしょう。マリヤは、神のあわれみを受けたエリサベツに会うことによって、自分に与えられた神の恵みをより確かなものにしようとしたのです。

マリヤがザカリヤの家に着き、戸口に立って挨拶をしました。すると、家の中から出てきたエリサベツは、マリヤの顔を見るなりすぐにマリヤに向かって言いました。

あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんとという光栄でしょう。ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう。

マリヤがまだ何も言わない先から、エリサベツは、天使がマリヤに現われた情景を見ていたかのように、マリヤを「祝福されたかた」と呼び、「主の母上」とさえ呼んでいます。マリヤが妊娠しているかどうか誰にも分からないときに、エリサベツは「あなたの胎の実も祝福されています」と言っています。エリサベツは聖霊の示しを受け、マリヤの身に起こったことを知ったのです。マリヤは、天使によって語られたことが夢でも幻でもなく現実であり、それがどんなに大きな恵みであるかを、エ

リサベツを通して確信したのです。神は、神を信じる者に、こうした信仰のまじわりを通してその信仰を強くし、信仰の喜びを増し加えてくださるのです。

マリヤは、そんな神の恵みに答えて、「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救主なる神をたたえます」と歌い出しました。この歌は、ラテン語で「マニフィカト」(Magnificat)と呼ばれています。「マニフィカト」というのは、そこから英語の "magnify" という言葉が生まれたように、「大きくする」という意味があります。「主をあがめる」というのは「主を大きくする」ということです。主なる神はもともと偉大なお方ですから、これは、その偉大さが、小さな私を通して表わされますようにとの祈りでもあるのです。同じ言葉はピリピ 1:20 の「生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである」というところで使われています。マリヤは神が、その御子によって崇められ、高められ、栄光を表わされるために、その身をささげたのです。

マリヤは、また、神を崇めただけでなく、自分に与えられた神の恵みをも感謝しています。マリヤは天使から神の言葉を聞いたとき、自分を「わたしは主のはしためです」と言いました。ここでも同じ言葉を使って、自分を「この卑しい女」と呼んでいます。しかし、同時に「今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう」と言っています。マリヤのセルフエスティームも、健全な意味で、高められたのです。神を信じる者、神を崇める者は、たんに自分を小さく、卑しいと言うだけで終わらず、自分が神に愛されている者、恵みを受けている者、神から特別な使命を受けている者であることを喜ぶことができます。これもまた、神を信じる者の幸いのひとつです。

聖書に「詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい」(エペソ 5:19)とありますが、エリサベツとマリヤはまさに「霊の歌をもって語り

合い」ました。これは、神の言葉に聞き従おうとする信仰者でなければできないまじわりです。私たちの間にも、このような神の言葉を中心にしたまじわりを育てていきたいと思います。私がアメリカで最初に奉仕した教会は、ほとんどのメンバーが女性でした。それで、ウィークデーの聖書の学びのときには女性ばかりが集まりました。そこで、誰かが、質問に正しく答えたり、祝福を受けた証しをしたりすると、きまった、ひとりの姉妹が「恵まれた女よ、おめでとう」と言って、その人を励ましていました。みんなは、「またか…」と苦笑いしながらも、その言葉に力づけられていました。互いに励まし合って神の言葉に信頼していく、そんなまじわりが築きあげられていきました。神はここでも、同じことをしてくださると信じています。喜びは、分かち合うことによって何倍にも大きくなります。マリヤが喜びの知らせを信仰によって受け止め、同じ信仰を持つ者といっしょに、それを大きく膨らませていったように、私たちも信仰の喜びを大きくしていきましょう。そのとき、私たちも、神を大きくしていくことができるのです。

(祈り)

主なる神さま、私たちも、マリヤと共にあなたをあがめます。私たちもまた、「主のお語りになったことが必ず成就すると信じ」、「お言葉どおりこの身に成りますように」とあなたにお答えできますように。「神の言を聞いてそれを守る」さいわいへと、それを共に分かち合う喜びへと私たちを導いてください。このクリスマス、喜びを失っている人々をかえりみてください。本当の喜びを求めている人々を、信仰による喜びに導いてください。主イエスのお名前です。